

平成 26 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

I. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、大正 9 年(1920 年)に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

本学園は、甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科・看護学研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は 50,000 名を超えています。甲南女子大学では、21 世紀型の女子大学として、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる女性の育成を目指しています。

甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、一般財団法人甲南会(甲南病院他)及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立精神のもと、それぞれの特色を強化し、更に英知を結集して、教育・医療における社会貢献を果たし、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移(5月1日現在) (単位:名)

区 分	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
○学生在籍者数				
人文科学総合研究科	33	29	25	31
看護学研究科	—	8	15	14
文 学 部	1,628	1,618	1,617	1,591
人間科学部	1,810	1,817	1,830	1,797
看護リハビリテーション学部	660	678	685	714
計	4,131	4,150	4,172	4,147
○生徒在籍者数				
高 等 学 校	488	495	502	501
中 学 校	536	546	546	550
計	1,024	1,041	1,048	1,051
○教職員数				
専任教職員	299	300	309	307
非常勤教職員	322	347	352	345
計	621	647	661	652

2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（平成26年5月1日現在）

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	102	320	391
英 語 文 化 学 科	120	127	480	548
多文化コミュニケーション学科	70	89	280	360
メ デ ィ ア 表 現 学 科	60	71	240	292
文学部 計	330	389	1,320	1,591
人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	108	360	450
総 合 子 ど も 学 科	120	127	480	538
文 化 社 会 学 科	80	93	320	406
生 活 環 境 学 科	80	107	320	403
人間科学部 計	370	435	1,480	1,797
看護リハビリテーション学部				
看 護 学 科	90	110	360	420
理 学 療 法 学 科	60	77	240	294
看護リハビリテーション学部 計	150	187	600	714
甲南女子大学 合計	850	1,011	3,400	4,102
大学院人文科学総合研究科 博士前期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	1	18	4
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	10	26	18
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	0	18	0
博士前期課程 計	31	11	62	22
大学院人文科学総合研究科 博士後期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	0	9	1
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	1	9	6
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	0	9	2
博士後期課程 計	9	1	27	9
大学院人文科学総合研究科 計	40	12	89	31
大学院看護学研究科 修士課程				
看護学専攻	5	5	10	14
大学院看護学研究科 計	5	5	10	14
大学院 合計	45	17	99	45
甲南女子中学校・高等学校				
甲 南 女 子 中 学 校	180	182	540	550
甲 南 女 子 高 等 学 校	180	169	540	501
甲南女子中学校・高等学校 計	360	351	1,080	1,051

Ⅱ. 事業の概要

1. 事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化等、取り巻く環境は、ますます厳しさを増しています。とりわけ、平成30年からの18歳人口減少期を見据えて、京阪神の各大学も様々な施策を展開しています。かかる状況下で本学園は、94年にわたる甲南女子教育の伝統と実績をもとに、常に中学校、高等学校、大学及び大学院における女子教育の新しいあり方を追求するとともに、中長期の視点から健全財政の実現と経営基盤の更なる安定・強化に取り組んでいます。具体的には、安定した大学経営を実現するための第3次全学中期計画（27年度から29年度）を策定し、これを学園全体で共有し、学長を中心としてPDCA（Plan Do Check Action）を確実に回していきます。

また、中高では、より機能的なIT環境を整備するとともに、体育館外壁及びアーチェリー場の人工芝補修など、教育環境の整備に努めています。大学キャンパスについても「校舎のあるべき姿プロジェクト」を中心に、将来の学習環境整備に着手しています。

大学院においては、人文科学総合研究科と並ぶ看護学研究科（修士課程）を開設し、質の高い高度な看護実践を支える教育・研究者及び指導者、特定の専門看護分野で活躍できる専門看護師の養成を目指した教育課程を編成しています。

甲南女子大学では、大学創立50周年の記念すべき年を迎え、毎年開催している図書館主催の「貴重書展」を「大貴重書展」とし、シェイクスピア関係等、本学が誇る資産を大規模に広く地域、社会に公開しました。

中高では、管理棟の空調設備改修、体育館の内装や2階歩廊・手摺の改修、和弓場・遠的場の屋根設置工事など、教育環境の整備更新に努めました。新校舎の使用は3年目となり、中高6学年30クラスが同じ校舎で学んでいます。

また、全コースが週6日制となって3年目となりました。Sアドバンストコースは、開設7年目となり、各学年2クラス、計12クラスとなりました。

2. 大 学

(1)教育体制

2研究科及び3学部を設置し、建学の理念及び大学の使命を果たすべく、各研究科、学部及び学科において教育目標及びアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、教育活動を行っています。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成26年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
-----	---

	人文科学総合研究科（博士後期課程） 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
	看護学研究科（修士課程） 看護学専攻
学 部	文 学 部 日本語日本文化学科 英語文化学科 多文化コミュニケーション学科 メディア表現学科
	人間科学部 心理学科 総合子ども学科 文化社会学科 生活環境学科
	看護リハビリテーション学部 看護学科 理学療法学科

(2)教育活動

平成 26 年度は、学部において平成 28 年度から提供する新共通教育カリキュラムの構築のため、共通教育カリキュラムポリシーの策定に取り組み、それを具体化した科目表の作成まで行いました。

甲南大学との大学間連携講座に関しては、前年度に引き続き本学の学生が甲南大学の授業を受講しています。また、甲南大学からも前年度に引き続き本学科目を受講し、単位互換での交流が進んでいます。

本学園内でも、高校から大学への進学者を増やすために、平成 20 年度に大学と甲南女子高等学校で協定書を締結し、以降毎年大学で高大連携講座「大学講座」を開講しています。平成 26 年度は年間を通じてのべ 69 名の高校生が本講座を受講しました。

また、各学部学科における専攻科目は、社会情勢の変化に応じて、常に見直しを行っています。

文学部においては、日本語日本文化学科及びメディア表現学科において、科目体系の再編成を行いました。英語文化学科においても一部科目表の改正を行いました。

人間科学部では、生活環境学科において一部科目表の改正を行いました。

また、入学後に大学生基礎力調査を行い、本学入学者の特徴やニーズ、質を確認し、入学後の教育活動に役立てる取り組みを行いました。今後、継続的に行っていく予定です。

看護リハビリテーション学部では、5 回目の卒業生を送り出し、看護学科では、看護師国家試験について全員合格とはならなかったものの 97%という高い合格率となりました。理学療法学科では、理学療法士国家試験について昨年度の 98.2%は下回るものの、平成 26 年度も 93.4%の高い合格率を維持することができました。看護師国家試験、理学療法士国家試験合格率ともそれぞれ全国平均を大きく上回る成果を上げました。

看護師・保健師・助産師・理学療法士 国家試験結果

(既卒含む)

	職 種	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国平均 (%)
5 期生 (平成 27 年 2 月受験)	看護師	100	97	97.0	90.0
	保健師	45	45	100.0	99.4
	助産師	3	3	100.0	99.9
	理学療法士	61	57	93.4	82.7
4 期生 (平成 26 年 2 月受験)	看護師	83	82	98.8	89.6
	保健師	70	61	87.1	86.5
	助産師	5	5	100.0	96.9
	理学療法士	57	56	98.2	83.7
3 期生 (平成 25 年 2 月受験)	看護師	104	104	100.0	88.8
	保健師	97	96	99.0	96.0
	助産師	4	4	100.0	98.1
	理学療法士	59	56	94.9	88.7
2 期生 (平成 24 年 2 月受験)	看護師	70	70	100.0	90.1
	保健師	60	53	88.3	86.0
	助産師	2	2	100.0	95.0
	理学療法士	77	71	92.2	82.4
1 期生 (平成 23 年 2 月受験)	看護師	59	59	100.0	91.8
	保健師	55	53	96.4	86.3
	助産師	4	4	100.0	97.2
	理学療法士	50	40	80.0	74.3

(3)外国語教育

外国語教育については、入学直後に英語統一試験を行い、その結果を用いて習熟度別クラス編成を行うなど、実践的な英語力の向上への取り組みを継続的に行っています。また、英語以外の外国語についても、入学直後の学生に初習外国語説明会を開き、各言語教育担当教員から、言語の特徴や社会的ニーズなどを学生に説明し、初習外国語の履修を促す取り組みを行っています。平成 26 年度はフランス語、ドイツ語、インドネシア語、韓国語、中国語の 5 言語を開講しました。

(4)国際交流

平成 26 年度は、甲南大学との連携により、甲南大学エリアスタディーズに本学学生が初めて参加しました。海外実務研修として初めて実施したマレーシア航空の研修施設でのキャビンアテンダント研修には学生が 7 名参加しました。新規の学科主催のプログラムとして、看護学科がイギリスのカンタベリー大学でナーシングツアーを実施し、学生 11 名が参加しました。危機管理会社のサービスと連携し、海外に派遣する学生の危機管理の強化を図りました。

学内での国際交流の機会を学生に提供するため、国際交流サポーターという学生ボランティアを組織したことにより、学内での国際交流の機会が増え、6 月に「国際交流 DAY」を実施し、留学生と在学学生、教職員約 60 名が留学生と交流しました。

韓国の^{すんみょん}淑明女子大学から、今年は 20 名の訪日文化研修団を受け入れ、ホームステイやサポーター学生によるサポートを通じて、淑明大学の学生と本学学生との交流が深まりました。今後、さらに国際交流協定校を増やし、本学の第 3 次全学中期計画の重点項目である「国際化の推進」を進めます。

【平成 26 年度実績】

交換留学：(中国) 天津外国語大学 (受入 2 名) (韓国) 淑明女子大学 (受入 2 名、派遣 2 名)、誠信女子大学 (受入 4 名、派遣 2 名) **認定留学：**(アイルランド) コーク大学ランゲージセンター (5 名)、(アメリカ) 西イリノイ大学 WESL (5 名)、(カナダ) リジャイナ大学 ESL (17 名)、(イギリス) リーズ大学ランゲージセンター (6 名) (ニュージーランド) CCEL クライストチャーチ校 (1 名)、(フランス) ナント大学 IRFFLE (1 名)、(韓国) 淑明女子大学 国際言語教育院 (9 名)、(中国) 復旦大学国際文化交流学院 (1 名)、(インドネシア) ダルマシスワ国費留学 (5 名)

語学文化研修・スタディーツアー：(カナダ) リジャイナ大学 ESL (夏 16 名、春 17 名)、(アイルランド) コーク大学ランゲージセンター (5 名)、(韓国) 淑明女子大学 国際交流言語教育院 (11 名)、(ニュージーランド) 子ども英語教育ツアー (11 名)、(香港) 甲南大学エリアスタディーズ香港浸会大学コース (1 名)

海外実務研修：(マレーシア) キャビンアテンダント研修 (7 名)

海外研修：(韓国) 日本語日本文化学科海外日本語教育実習 (6 名)、(アメリカ) 理学療法学科海外研修 (12 名)、(イギリス) 看護学科ナーシングスタディーツアー (11 名)

(5)情報教育

情報化社会に対応し、初級から上級者向けの科目を全学共通科目に設けています。教室に設置されているプロジェクターの高輝度タイプへの3ヶ年更新計画が完了し、学習環境の改善を行いました。また、全学で利用可能となった学内無線LAN環境の改善を行いました。併せて、全コンピュータ教室に導入されている授業支援ソフトの効率的な活用を推進し、学習支援環境の充実に努めています。

(6)学生生活

本学では教育理念に基づき、マナー教育に力を入れています。文学部・人間科学部の1・2年生を対象に共通教育科目の「大学探検」の授業においてマナー講座を年間30コマ提供しました。また、学科が基礎ゼミ等の時間を利用して開講しているマナー講座を平成26年度は全学部10学科中8学科が実施し、文学部、人間科学部は学生と社会人のマナー対応の違いなどを学び、看護学科と理学療法学科では実習施設でのマナーについての実践を修得する内容となっています。平成26年度は全学科33コマを実施しました。また、平成25年度から実施しているマナー啓発活動を継続して実施しました。「あいさつを大切に」「授業中のマナーを守ろう」「スクールバスのマナーを守ろう」をテーマとして自治会を中心にキャンペーン活動として春と秋の各2週間実施しました。

学費の支援では学生の3人に1人が日本学生支援機構の奨学生であり、年々増加傾向で本学独自の奨学金には254名の出願がありました。

学生の健康面では、平成26年度に保健センターに「からだの支援室」「こころの支援室」を設置しました。「こころの支援室」は「学生相談室」を保健センターに統合し、学生だけでなく、教職員の支援も行う体制を整えました。また、電子カルテを導入することで「からだの支援室」と情報を共有しながら支援を強化しました。

(7)課外活動

軟式庭球部 全日本学生ソフトテニス大会
ベスト16 部長 心理4年 吉田優佳
兵庫学生新進大会 ベスト4
ダブルス 生活環境4年 国場沙織、生活環境4年 黒木玲花
弓道部 兵庫県民体育大会 優勝 生活環境4年 八百可名世
洋弓部 関西学生アーチェリー70mラウンド公認記録会
個人 1位・2位・3位
1位 心理3年 三島紗佳、2位 生活環境4年 名倉也案、
3位 生活環境4年 戸谷美奈
愛知県フィールド大会 個人
1位 生活環境卒業 又江史子
兵庫県室内アーチェリー競技大会 個人 1位
メンバ2年 三村ななみ
ラケットボール部 全日本学生ラケットボール選手権大会
団体戦 4位 代表 心理卒業 藤井真依
スケート部 PI フリースケーティング大会 成年の部
優勝 メンバ4年 橋野衣里奈

チアリーディング部 西日本選手権大会 3位
部長 文化社会3年 横山甘奈

(8)就職活動

平成26年度は昨年度に引き続き緩やかな景気回復の中、企業の採用状況の好転もあり、求人数も増加しています。前年度を上回る就職率と就職希望率達成をめざし、就職課では次の点で就職支援の見直しを行いました。

- ① 就職ガイダンス、各種講座の学生参加数、内容、開催時期の検証と改善。
- ② 就職に関する学生個人の情報管理を効率化し、面談等における有効利用を実現。
- ③ 保証人説明会、ガイダンス等で講演形式から独自DVD作成による伝達力の強化。
- ④ メール配信システムによる学生との連携強化。

以上の結果、平成26年度就職率96.8%(3.3%増)就職希望率87.9%(3.4%増)と昨年度を大きく上回り、就職への意識が全体的に高まりました。特別プログラムの金融塾においては参加者中7割が大手銀行を含む金融関係に、その他が希望企業に就職を果たしており、資格サポートセンターでは簿記検定などの金融に関する講座で高い合格率を上げています。

(9)大学開放

毎年、10月の第4土・日曜日に大学祭を実施し、学内外の多くの方に参加していただいています。また、土曜日には同窓生を招く、第33回ホームカミングデーを実施しました。卒業生の参加者は613名で、クラス会には10組154名の参加がありました。

さらに大学が有する人的・物的・知的資源を広く学外へ提供する公開講座・研修会等を実施しました。

- 【公開講座】「宝塚歌劇講座」、「阪神・淡路大震災20年甲南女子大学メモリアル講演会」
- 【地域交流】「甲南子育てひろば」、本山第三小学校「町たんけん」、東灘区役所「夏休み子どもいろいろ体験スクール」
- 【芸術文化】「芦屋交響楽団」芦原講堂開放
- 【その他】あしなが育英会「ツデーのつどい」体育館開放

(10)学生募集

平成27年度入試結果について、志願者は昨年度より4%減でしたが、10,629名を集め、期首目標の1万名を上回ることができました。入学者(定員870名)は、988名で昨年度より2%減で、目標とする1千名には到達できませんでした。入学定員増を行ったメディア表現学科の入学者82名(入学定員70名(10名増))、看護学科の入学者100名(入学定員100名(10名増))で、入学定員は充足できました。ただし、心理学科(入学定員90名)においては2名の定員未充足となりました。

学生募集活動については、高等学校への反復した訪問活動を実施、オープンキャンパスに来学し易い時期を考察し、来場者を増やすための日程を策定し、来場者の満足度向上に重点をおいた内容の強化策を講じました。

(11) 広報活動

平成 26 年度のブランド広報として、大学創立 50 周年を記念したムービー作品『丘の上のクローバー』を制作し、本学公式サイト等で公開しました。

また、国文学科卒業生の作家・朝井まかてさんが第 150 回直木賞を受賞したことを記念し、学内で講演会を開催し、その内容を朝日・読売・毎日・産経の各紙にて掲載しました。

Web 上の取り組みとして、Facebook ページは現在も全国の女子大で第 3 位の「いいね！」数を維持しており、既存ファン層である同窓生等に対するブランドイメージ訴求に役立っています。また、在学生を対象にした公式 Twitter のフォロワー数も毎年、増やしています。

学生募集広報は、パンフレット他広告媒体など内容を充実させ、目的や目標別に絞り込んだ広告物などを作成し、効率的に行いました。

また、平成 27 年度より、新設の「広報課」を立ち上げ、学生募集広報をさらに強化・充実していきます。

(12) ベスト・ティーチャー賞

学生に対する授業評価アンケートを参考として、大学教員(2 名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。

(13) 地域貢献

対外協力センターの社会貢献室では、学生の「学び」と「地域」をキーワードに学生のボランティア活動のサポートや地域貢献活動に取り組んでいます。平成 26 年度に社会貢献室・ボランティアセンターにおいてボランティア登録を行った学生は 1,167 名（前年度 1,130 名）に達し、新規ボランティア派遣先 16 団体を含む計 46 団体に学生を派遣しました。

対外協力センター発足から 6 年目を迎え、より「地域」に密着した社会貢献活動に取り組みました。地元商店街と共に年 2 回岡本の街の清掃活動を行う「岡本一斉クリーン作戦」には、今年は 88 名の学生・教職員が参加しました。

神戸市大学連携推進室からの依頼により、神戸市が発行する『広報紙 KOBE』に本学学生 2 名が学生記者クラブの記者として記事の制作に参加しました。今後も行政との連携による地域貢献活動を推進します。

地域に根差した産学連携の取り組みとして、大丸神戸店からの依頼により、地域の洋菓子店、惣菜店と共に本学学生 10 名が地下食品フロアの販売メニューを考案しました。次年度も女子大にふさわしい産学連携の取り組みの事例をさらに増やしていきます。

恒例行事となったチャリティーコンサートを 2 回実施し、多くの学生がボランティアとして運営に協力しました。チャリティーコンサートによる募金の 1,054,403 円は「あしなが東日本大震災遺児資金募金」としてあしなが育英会に全額寄付しました。

(14) 施設関連

経年劣化した施設・設備の改修をはじめ、学習環境等の整備及び環境・アメニティの向上を図りました。主なものとしては、2 号館・芦原講堂・第 4 学生会館・書庫の屋上防水改修、2 号館北面アルミサッシ更新、管理棟高圧機器改修、構内のアプローチ歩道改修等を行いました。

また、学生寮のエアコン改修や清友園（同窓会館）の畳・アコーディオンカーテン等の改修など学外施設についても安全で快適な環境の提供に努めています。

3. 中学校・高等学校

(1)教育活動

スタンダードコース 3 クラス、S アドバンストコース 2 クラスが全学年で編成された最初の年になりました。

中学 1 年生で実施された 4 月 1 日からのスプリングセミナーに始まり、2 月 28 日の高校 3 年生の卒業式、3 月 20 日の中学校卒業式、その後 3 月 27 日の春期講習まで、「人間教育の推進」と「進路志望の実現」を柱とした教育活動を行いました。

(2)教育課程

教育課程委員会を編成し、新教育課程の問題点について意見集約を行い、必要に応じて教育課程の見直し（選択授業の一部変更など）、授業内容の精選を行いました。

(3)総合学習

高校 1 年生で行っている「総合探求」の授業では、芦屋川商店街と協同で商品開発を行うなど新しい試みも始め、2 月の学習成果発表会がさらに充実したものになりました。

(4)生徒指導

前年度に作成したマナービデオを中学生に視聴させるなど活用し、生徒のマナー向上を図りました。生徒の発案による和光会役員の登校時立ち番や校内右側通行の表示、マナーアンケートを実施し、生徒の自主的な活動によるマナー向上運動も実現しました。年を追うごとに生徒の自主的な活動は向上しています。

「いじめ防止」については、「いじめ防止対策推進法」に基づき、校内に委員会や対応チームを設置し、適切な対応ができるようにしました。

(5)国際交流

下表の通り実施しました。

期間	相手国：学校名	送 出	受 入
長期	ドイツ：デートリッヒ・ボンヘッファー・ギムナジウム	1名 9月～翌7月	1名 9月～翌6月
	イギリス：クィーンズウッド	1名 9月～翌7月	
	アメリカ合衆国：ゲートウェイ・レガシー・クリスチャン・アカデミー（YFU）	1名 9月～翌7月	
	アメリカ合衆国：プリスコ・ハイスクール（YFU）	1名 9月～翌7月	
中期	オーストラリア：セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール	2名 7月～9月	

短期	カナダ：キャンモアでのホームステイと英語研修	夏休み 13日間	
	オーストラリア：シドニー・ガールズ・スクール ／セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール	夏休み 15日間	
	シンガポール：南洋女子中学校	夏休み 5日間	
	ハワイ：ルジャルダン・アカデミー		2名 6月
	アメリカ合衆国：ニューヨーク・ブルックリン・フレンズ・ハイスクール		1名 6・7月
	イギリス：セントヘレンズ		3名 10月
	イギリス：クィーンズウッド		9名 10月
	オーストラリア：セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール		3名 12月
	韓国：培花女子高等学校		3名 2月

(6)進路指導

予習→授業→復習の学習サイクルの徹底を図るため、各教科担当者が生徒に示す授業計画表（授業の進行計画・学習の方法など）を作成し、配付しました。

生徒のPDCAサイクルを確立するため、中学生を中心に目標やスケジュールなどを記入し「手帳」をもたせ、自分で時間を管理するように指導し、生活リズムをつくらせました。

昨年の国公立大学合格者33名に続き、今年は45名（既卒者4名を含む）の国公立大学合格者を出し、さらに進学実績を伸ばしました。

甲南女子大学についても昨年と同数の25名を進学させることができました。

高い目標の生徒たちの志望の実現と10年一貫教育の本学園の良さを共存させることができました。

(7)高大連携

高校2年生・3年生の甲南女子大学における単位修得を含む大学講座は、大学の教員の協力をいただき、より充実したものになりました。

進路指導の面でも、甲南女子大学の模擬授業を高校1年生・2年生対象に行うなど生徒の卒業後の進路を考える上でもプラスになりました。

(8)部活動

KGFの練習時間と部活動の時間の切り分け、春期講習・夏期講習と部活動の時間の切り分けをし、学習と部活動等の自主的な活動との両立ができるようにしました。

主な活動の成果は以下の通り（全国大会入賞のみ）

〔弓道部〕

全国中学生弓道大会

女子個人の部 第2位

福島菜緒（中3）

女子団体の部 第2位

土井恵璃奈（中3） 奥野久美子（中3）

向下奈桜（中3） 田中里奈（中3）

第69回国民体育大会弓道競技
少年女子 遠的競技 第5位
選手 廣嶋みゆき(高3) 西村優美(高3)
監督 川久保 亘(中高教諭)

[放送部]

第61回全国高校放送コンテスト全国大会
優良賞(第5位) 豊田雛子(高3)
第31回全国中学校放送コンテスト全国大会
入選 奥田紘子(中3) 入選 島里奈(中3)

(9)生徒募集対策

受験生・保護者対象の学校説明会や塾対象の説明会の内容を授業見学にするなど毎回アレンジを加え、来校者増を図りました。

その結果、10月・12月の説明会では例年を大きく越える来校者を得ました。また、学校紹介の1枚もののリーフレットを作成し、前年までは行っていなかった塾訪問を始めました。

また、豊中市や吹田市等、大阪府の北摂地域へのブース説明会にも参加し、これまで本校があまり知られていない地域での発信に努めました。

この結果、前年の大学進学実績の効果もあり、今年は、志願者949名、受験者549名、入学手続き者198名、と前年度実績を大きく超えました。

一方、神戸大学附属中等教育学校の入試が始まり、その影響で手続後の辞退者が予想を大きく上回ったため、入学者数は180名にとどまり、目標としていた185名を下回りました。

(10)授業力向上

教員相互の授業観察を引き続き行い、生徒の学力を伸ばすための授業づくりに努めました。

(11)施設関連

経年劣化した施設・設備の改修や教育環境の整備を進めています。

平成26年度は、管理棟の空調設備改修、体育館の内装や2階歩廊・手摺の改修、和弓場・遠的場への屋根設置を行いました。

Ⅲ. 財務の概要

(1) 平成 26 年度決算の状況

【資金収支計算書】

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	5,897,851	5,894,530	3,321	100.0%
手数料収入	121,334	118,018	3,316	102.8%
寄付金収入	23,851	18,550	5,301	128.5%
補助金収入	457,634	480,444	△ 22,810	95.2%
資産運用収入	285,908	339,284	△ 53,376	84.2%
資産売却収入	7,505,944	8,832,082	△ 1,326,138	84.9%
事業収入	73,500	79,193	△ 5,693	92.8%
雑収入	122,711	195,510	△ 72,799	62.7%
前受金収入	1,057,920	1,072,005	△ 14,085	98.6%
その他の収入	4,328,623	851,194	3,477,429	508.5%
資金収入調整勘定	△ 1,198,883	△ 1,301,364	102,481	92.1%
計	18,676,393	16,579,446	2,096,947	112.6%
前年度繰越支払資金	5,513,875	4,705,528	808,347	117.1%
収入合計	24,190,268	21,284,974	2,905,294	113.6%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 20 億 96 百万円増の 186 億 76 百万円となりました。主な増加は、その他収入の 34 億 77 百万円増(特定資産の定期預金満期 24 億 50 百万円収入増)によるものです。主な減少は、資産売却収入 13 億 26 百万円減(国債・社債・国庫短期証券の償還収入減)によるものです。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
人件費支出	3,568,923	3,730,967	△ 162,044	95.6%
教育研究経費支出	1,129,026	1,107,975	21,051	101.8%
管理経費支出	536,417	482,571	53,846	111.1%
施設関係支出	405,644	252,523	153,121	160.6%
設備関係支出	199,590	215,105	△ 15,515	92.7%
資産運用支出	11,993,595	9,748,686	2,244,909	123.0%
その他の支出	481,818	498,904	△ 17,086	96.5%
資金支出調整勘定	△ 272,275	△ 265,632	△ 6,643	102.5%
計	18,042,738	15,771,099	2,271,639	114.4%
次年度繰越支払資金	6,147,530	5,513,875	633,655	111.4%
支出合計	24,190,268	21,284,974	2,905,294	113.6%

『支出の状況』

資金支出計(次年度繰越支払資金を除く)は、前年比 22 億 71 百万円増の 180 億 42 百万円となりました。主な増加は、資産運用支出の 22 億 44 百万円増で内訳は有価証券等の長期運用(地方債・財投機関債・社債・定期預金)91 億 56 百万円、1 年以内の短期運用(国庫短期証券)13 億円です。

一方、主な減少は、人件費支出 1 億 62 百万円減です。

【資金収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度決算	H25 年度決算	増 減	増減率
資金収支差額	633,655	808,347	△ 174,692	78.3%

※資金収支差額=資金収入計-資金支出計

『資金収支差額』の状況

資金収支差額は前年比 1 億 74 百万円減の 6 億 33 百万円となりました。この結果、次年度に繰越される支払資金は 61 億 47 百万円となりました。

平成 26 年度の主な施設設備整備事業は次のとおりです。

大学	1. 土地購入	260,093	千円
	2. 2号館北面アルミ製建具改修工事	25,056	千円
	3. 学内 LAN 基幹ネットワーク更改他	25,138	千円
中高校	1. 体育館内装他改修工事	45,252	千円
	2. 管理棟空調設備改修工事	25,380	千円

【消費収支計算書】

【消費収入の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金	5,897,851	5,894,530	3,321	100.0%
手数料	121,334	118,018	3,316	102.8%
寄付金	28,403	22,993	5,410	123.5%
補助金	457,634	480,444	△ 22,810	95.2%
資産運用収入	285,908	339,284	△ 53,376	84.2%
資産売却差額	735,588	263,896	471,692	278.7%
事業収入	73,500	79,193	△ 5,693	92.8%
雑収入	123,136	195,764	△ 72,628	62.9%
帰属収入合計	7,723,354	7,394,122	329,232	104.4%
基本金組入額合計	△ 587,183	△ 317,290	△ 269,893	185.0%
消費収入の部合計	7,136,171	7,076,832	59,339	100.8%

『消費収入の状況』

(1) 学生生徒等納付金

前年比 3 百万円増の 58 億 97 百万円となりました。

期中の学生生徒数は 5198 名(平成 26 年 5 月 1 日現在)です。

(2) 手数料

前年比 3 百万円増の 1 億 21 百万円となりました。手数料の主なものは、入学検定料 1 億 14 百万円です。

(3) 寄付金

前年比 5 百万円増の 28 百万円となりました。主な寄付金は、中高校への教育環境整備資金として 23 百万円を受け入れました。

(4) 補助金

前年比 22 百万円減の 4 億 57 百万円となりました。主な補助金は、私立大学等経常費補助金 1 億 24 百万円、私立学校施設設備費補助金 11 百万円、兵庫県私立学校経常費補助金 3 億 11 百万円です。

(5) 資産運用収入

前年比 53 百万円減の 2 億 85 百万円となりました。有価証券、積立特定資産、運転資金等の受取利息 2 億 80 百万円及び施設設備利用料 5 百万円です。

(6) 資産売却差額

前年比 4 億 71 百万円増の 7 億 35 百万円となりました。

主なものは、有価証券償還差額の 7 億 30 百万円です。

(7) 事業収入

主なものは、大学学生寮の寮費 69 百万円です。

(8) 雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 1 億 4 百万円及びその他の雑収入 18 百万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比 3 億 29 百万円 (4.4%) 増の 77 億 23 百万円となりました。

【消費支出の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
人 件 費	3,537,880	3,658,050	△ 120,170	96.7%
教 育 研 究 経 費	1,810,749	1,815,885	△ 5,136	99.7%
管 理 経 費	593,731	543,442	50,289	109.2%
資 産 処 分 差 額	6,652	19,393	△ 12,741	34.3%
徴収不能引当金繰入額	0	1,837	△ 1,837	0.0%
消費支出の部合計	5,949,012	6,038,607	△ 89,595	98.5%

減価償却額の内訳

(単位:千円)

内訳	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
教 育 研 究 経 費	681,722	707,910	△ 26,188	96.3%
管 理 経 費	57,313	60,870	△ 3,557	94.1%

『消費支出の状況』

(9) 人件費

前年比 1 億 20 百万円 (3.3%) 減の 35 億 37 百万円となりました。期中の本務教職員数は 307 名、兼務教職員数は 345 名で、帰属収入に占める人件費割合は 45.8% (前年同比率 49.5%) となりました。

(10) 教育研究経費

前年比 5 百万円 (0.3%) 減の 18 億 10 百万円となりました。減価償却額を除く経費は 11 億 29 百万円 (前年比 1.9% 増) で、前年度より 21 百万円増加しました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は 23.4% (前年同比率 24.6%) となりました。

(11) 管理経費

前年比 50 百万円 (9.2%) 増の 5 億 93 百万円となりました。帰属収入に占める管理経費の割合は 7.6% (前年同比率 7.3%) となりました。

(12) 資産処分差額

前年比 12 百万円 (65.7%) 減の 6 百万円の設備処分となりました。

(13) 徴収不能引当金繰入額

学費の徴収不能引当金は当期は繰入無。

この結果、消費支出合計は前年比 89 百万円 (1.5%) 減の 59 億 49 百万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
当年度消費収入超過額	1,187,159	1,038,225	148,934	114.3%
前年度繰越消費収入超過額	6,434,369	5,396,144	1,038,225	119.2%
翌年度繰越消費収入超過額	7,621,528	6,434,369	1,187,159	118.4%

『基本金組入・消費収支差額の状況』

第 1 号基本金は、施設設備の取得総額 5 億 87 百万円を組入ました。

『帰属収支差額の状況』

(単位:千円)

帰属収支差額	H26 年度決算	H25 年度決算	増減	増減率
帰属収入－消費支出	1,774,343	1,355,515	418,828	130.8%

当期は前年度より 4 億 18 百万円 (130.8%) 増加し、17 億 74 百万円となりました。帰属収入に対する割合は 23% (前年同比率 18.3%) となりました。

【貸借対照表】

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度末	H25 年度末	増減	増減率
固定資産	41,185,988	40,079,179	1,106,809	102.7%
有形固定資産	20,914,704	21,062,603	△ 147,899	99.2%
土地・建物・構築物	17,092,088	17,196,867	△ 104,779	99.3%
機器備品・図書・車輛	3,822,616	3,865,736	△ 43,120	98.8%
その他の固定資産	20,271,284	19,016,576	1,254,708	106.5%
特定資産・有価証券	20,117,183	18,880,078	1,237,105	106.5%
教育ソフトウェア他	154,101	136,498	17,603	112.8%
流動資産	6,338,394	5,739,209	599,185	110.4%
現金預金	6,147,530	5,476,345	671,185	112.2%
未収入金他	190,864	262,864	△ 72,000	72.6%
資産合計	47,524,382	45,818,388	1,705,994	103.7%

『資産の状況』

固定資産は、11億6百万円増加し411億85百万円となりました。

その他の固定資産のうち特定資産(積立金)は12億37百万円増加しました。

流動資産は、5億99百万円増加し63億38百万円となりました。

これは主に現金預金が6億71百万円増加したことによるものです。

この結果、資産総額は前年度より17億5百万円増加し475億24百万円となりました。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度末	H25 年度末	増減	増減率
固定負債	1,171,285	1,217,153	△ 45,868	96.2%
退職給与引当金	1,171,285	1,202,329	△ 31,044	97.4%
長期未払金	0	14,824	△ 14,824	0.0%
流動負債	1,498,164	1,520,645	△ 22,481	98.5%
前受金	1,057,920	1,072,005	△ 14,085	98.6%
短期未払金他	440,244	448,640	△ 8,396	98.1%
負債合計	2,669,449	2,737,798	△ 68,349	97.5%

『負債の状況』

退職給与引当金が31百万円、長期未払金が14百万円減少し、流動負債も22百万円減少したため、負債総額は前年度より68百万円減少し26億69百万円となりました。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度末	H25 年度末	増減	増減率
第 1 号 基 本 金	35,523,405	34,936,221	587,184	101.6%
第 3 号 基 本 金	1,210,000	1,210,000	0	100.0%
第 4 号 基 本 金	500,000	500,000	0	100.0%
基本金合計	37,233,405	36,646,221	587,184	101.6%

【消費収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H26 年度末	H25 年度末	増減	増減率
翌年度繰越消費収支差額	7,621,528	6,434,369	1,187,159	118.4%

【負債・基本金・消費収支差額の部合計】

(単位:千円)

科目	H26 年度末	H25 年度末	増減	増減率
負債・基本金・消費収支差額 計	47,524,382	45,818,388	1,705,994	103.7%

(正味財産)

(単位:千円)

科目	H26 年度末	H25 年度末	増減	増減率
基本金+消費収支差額	44,854,933	43,080,590	1,774,343	104.1%

『正味財産の状況』

当期において5億87百万円を第1号基本金へ組み入れたため、基本金総額は372億33百万円となりました。この結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は前年度より17億74百万円増加し448億54百万円となりました。

(2)財務状況の推移

消費収支計算書(5ヵ年)

(単位:千円)

科目	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
学生生徒等納付金	5,663,438	5,814,871	5,842,501	5,894,530	5,897,851
手数料	122,941	116,967	121,505	118,018	121,334
寄付金	45,770	96,607	26,143	22,993	28,403
補助金	671,756	544,779	554,388	480,444	457,634
資産運用収入	224,662	188,147	189,292	339,284	285,908
資産売却差額	150,327	0	3,880	263,896	735,588
事業収入	84,345	82,415	86,150	79,193	73,500
雑収入	167,221	224,271	217,907	195,764	123,136
帰属収入合計	7,130,460	7,068,057	7,041,766	7,394,122	7,723,354
基本金組入額合計	0	△ 506,774	△ 157,313	△ 317,290	△ 587,183
消費収入の部合計	7,130,460	6,561,283	6,884,453	7,076,832	7,136,171

科目	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
人件費	3,513,052	3,592,274	3,693,463	3,658,050	3,537,880
教育研究経費	1,895,576	1,826,355	1,859,862	1,815,885	1,810,749
管理経費	598,110	572,741	547,993	543,442	593,731
資産処分差額	282,131	565,348	393,708	19,393	6,652
徴収不能引当金繰入額	14,086	6,405	3,770	1,837	0
消費支出の部合計	6,302,955	6,563,123	6,498,796	6,038,607	5,949,012
当年度消費収支差額	827,505	△ 1,840	385,657	1,038,225	1,187,159
前年度繰越消費収支差額	2,301,277	3,610,205	5,010,487	5,396,144	6,434,369
基本金取崩額	481,423	1,402,122	0	0	0
翌年度繰越消費収支差額	3,610,205	5,010,487	5,396,144	6,434,369	7,621,528

主な財務比率(5ヵ年)

科目		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	算式
消費収支計算書	学生生徒等納付金比率	79.4%	82.3%	83.0%	79.7%	76.4%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$
	人件費比率	49.3%	50.8%	52.5%	49.5%	45.8%	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$
	教育研究経費比率	26.6%	25.8%	26.4%	24.6%	23.4%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$
	帰属収支差額比率	11.6%	7.1%	7.7%	18.3%	23.0%	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$

貸借対照表の推移(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
固定資産	39,196,638	39,634,755	39,619,376	40,079,179	41,185,988
流動資産	4,420,306	4,514,830	4,999,864	5,739,209	6,338,394
資産の部合計	43,616,944	44,149,585	44,619,240	45,818,388	47,524,382
固定負債	1,510,521	1,420,275	1,314,056	1,217,153	1,171,285
流動負債	1,429,253	1,547,206	1,580,109	1,520,645	1,498,164
負債の部合計	2,939,774	2,967,481	2,894,165	2,737,798	2,669,449
基本金の部合計	37,066,965	36,171,617	36,328,931	36,646,221	37,233,405
翌年度繰越消費収支差額	3,610,205	5,010,487	5,396,144	6,434,369	7,621,528
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	43,616,944	44,149,585	44,619,240	45,818,388	47,524,382

主な財務比率(5ヵ年)

科目		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	算式
貸借対照表	固定資産比率	89.9%	89.8%	88.8%	87.5%	86.7%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固定負債比率	3.5%	3.2%	2.9%	2.7%	2.5%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$
	流動比率	309.3%	291.8%	316.4%	377.4%	423.1%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	自己資金比率	93.3%	93.3%	93.5%	94.0%	94.4%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$

(注) 自己資金=基本金+消費収支差額
 総資金=負債+基本金+消費収支差額

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

役員	
理事長	中 内 仁
副理事長	上 島 一 泰
副理事長	森 下 榮 生
理事	松 林 靖 明
理事	清 水 徇
理事	下 村 雅 一
理事	森 田 勝 昭
理事	芦 田 徹 郎
理事	荒 賀 直 子
理事	清 水 俊 成
理事	近 藤 三 津 枝
理事	有 澤 美 弥 子
理事	南 保 子
理事	熊 谷 信 昭
理事	松 下 正 幸
理事	岡 橋 輝 和
理事	吉 沢 英 成
監事	小 笹 定 典
監事	吉 松 典 子

評議員	
信 時 哲 郎	中 内 仁
相 澤 亮 太 郎	上 島 一 泰
前 川 幸 子	森 下 榮 生
竹 井 誠	松 下 正 幸
天 川 純 一	下 村 雅 一
後 田 尚 宏	熊 谷 信 昭
北 畠 健 次	俵 正 市
松 林 靖 明	近 藤 三 津 枝
清 水 徇	岡 橋 輝 和
森 田 勝 昭	吉 沢 英 成
芦 田 徹 郎	平 生 誠 三
荒 賀 直 子	中 村 啓 子
清 水 俊 成	明 石 巧
阿 部 菜 穂 子	平 岡 雄 一 郎
南 保 子	鈴 木 俊 茂
有 澤 美 弥 子	木 下 正 宣
中 野 早 佑 美	下 村 治 生
高 木 泰 子	益 岡 秀 子
	宮 脇 千 恵

理事	17名
監事	2名
評議員	37名

学校法人甲南女子学園 組織機構図

(平成27年3月31日現在)

は、法人管理運営組織

